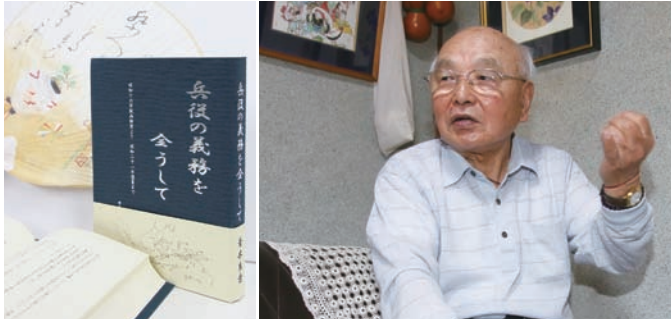


人の命と平和の重さ 書き綴る

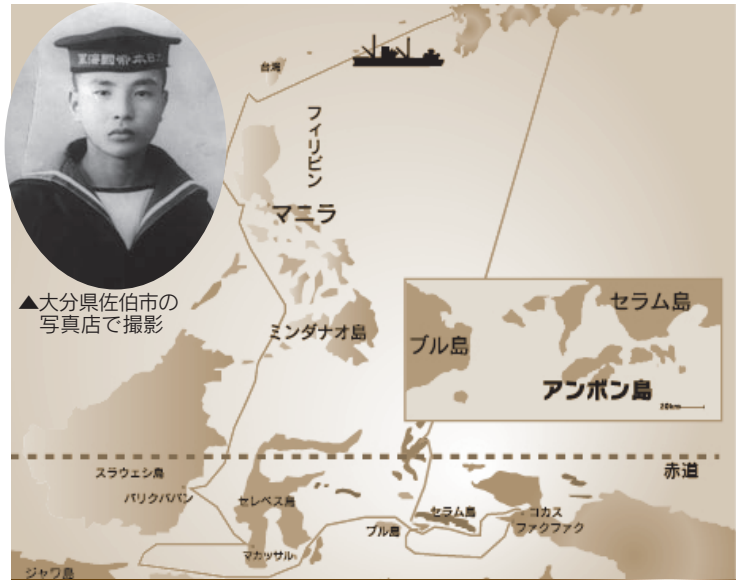
【1944年5月 門司港出港から帰国までの2年間】

従軍体験は誰にも話さなかった。終戦後50年以上、口をつぐんできた。身命を捧げながら戦った若者がたくさんいる。ただ、その真実を伝えなかった。



▲自費出版本

▲当時を振り返る青木氏(自宅にて)



▲大分県佐伯市の写真店で撮影

青木良秀 (94) 大阪市生まれ 羽曳野市在住

大阪市立実業学校電機科を卒業。戦後、造船会社に約30年間勤める。65年目の終戦記念日に、戦争体験を綴った『兵役の義務を全うして』(430ページ)を自費出版。

生い立ち～出征

6人姉弟の2番目、長男として生まれ、大阪市西区の旧居留地近くで育った。小学生の頃から『教育勅語』を学び、中学校では常駐する軍人の指導のもと軍事教練を受けた。造船会社に勤めていた20歳のとき、海軍の徴兵検査に合格。当時、軍人になることは義務だった。横須賀海軍工機学校にて電気術を学ぶなどした後、海軍機関兵としてインドネシア方面(行き先は告げられないまま)へ赴任となる。途中、魚雷攻撃を受けながらも便船を乗り継いで島々を渡った。

記憶に残る悲惨さ

ブル島沖で受けた空爆では、船倉にいた約200人の陸軍兵士が犠牲となった。頭部や四肢がバラバラとなった遺体で甲板は溢れた。時間が経つのも忘れ、軍服を赤く染め、遺体を集め続けた。あんなつらい思いをしたことはない。彼らは祖国に戻り再び家族と会うことができないのかと思うと、涙が止まらなかった。

そして終戦へ

終戦はアンボン島で迎えた。同市内の電気設備の点検を終え帰隊すると、玉音放送がスピーカーから流れ

ていた。連合軍の指示で、武器をすべて集め海に投棄した。『戦争は濟んだんや。』とほっとした。その後、戦後処理を終え1946年6月に復員。家族との再会にまた涙した。

感謝を忘れない…

平成6年の糖尿病療養中に、記憶力低下の恐れがあると主治医から話を聞き、戦争の記録を残す決意をした。私の体験を通して、平和の尊さが伝わってくれればと思う。終戦記念日には、体験を振り返る。

家族や友人と過ごすことができる今、生きていることに感謝している。

おしえて! つぶたん

世界遺産って?

世界遺産登録は、地球上にある大事な大事な遺産を守って、次の世代に継承していくために行われるものなんだ。日本の世界遺産といえば、姫路城や屋久島など、美しいイメージがあるけども、人類が犯した悲惨な出来事を鮮明に伝える様なものもあるんだ。

原爆ドーム (広島県広島市中区)

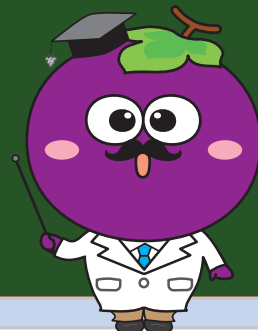
原爆ドームは、「人類史上初めて使用された核兵器の惨禍を如実に伝え、時代を超えて核兵器の廃絶と世界の恒久平和の大切さを訴え続ける人類共通の平和記念碑」として、平成8年に世界遺産に登録されたんだよ。

今年も、広島や長崎で行われる平和記念式典に

北川市長が代表で出席するんだ。また、被爆70年の節目なので、世界90カ国以上の来賓さんも参列するんだよ。



原爆ドーム



ずっと守り、引き継いで…

羽曳野市にも、実は、世界に誇るべき貴重な歴史遺産があるんだ。それが古市古墳群なんだ。後世まで末永く守り伝えるために、世界文化遺産登録をめざしているんだ。